



田中富雄と 「徳島作家」の時代

芥川賞・直木賞候補を輩出したころの「徳島作家」の同人たち。後列右から田中富雄、岸文雄、松崎慧、細田昌弘、前列右から須田文子、平田恭子、岡田みゆき、中川静子、橋本潤一郎、水上喬治、坂東秀、仁木一郎（1963年 徳島市の瑞蔵寺）

徳島県立文学書道館 文学特別展

2023年12月12日(火)～
2024年2月12日(月・振休)

関連イベント

講演会 「徳島作家」の仲間たち *入場無料・申込必要

講師／竹内菊世（「飛行船」代表、元「徳島作家」同人）

12月16日(土) 14:00～15:30 定員／100人 申込締切／12月2日

朗読会 「徳島作家」を読む *入場無料・申込必要

出演／朗読サークル「胡桃」

1月21日(日) 14:00～15:00 定員／100人 申込締切／1月7日

【開館時間】 9:30～17:00

【休館日】 月曜日（祝日の場合はその翌日）
年末年始（12月28日～1月4日）

【会場】 1階特別展示室・3階収蔵展示室

【観覧料】 一般 520円（410円）
高校・大学生 360円（290円）
小・中学生 260円（200円）

※()内は20人以上の団体割引料金。

高齢者(65歳以上)と各障がい者手帳をお持ちの方は半額。

小・中・高校生は、土・日・祝日と冬休み期間中は無料。

【主催】 徳島県立文学書道館

【後援】 徳島新聞社・四国放送・NHK 徳島放送局





「徳島作家」創刊号（1958年）

1958（昭和33）年、徳島の地に全国でも傑出した同人誌「徳島作家」が誕生しました。創刊者は、徳島市生まれの田中富雄（1918―2004年）。世俗的な名利を求めず、清貧を潔しとして文学と真摯しんに向き合った田中のもとには、多くの同人たちが集まり、健筆を振るいました。

4号に発表された田中の「生口記」が「文学界」に転載されたのを皮切りに、岡田みゆきの「石ころ」（5号）が芥川賞候補（1961年上半期）に、中川静子の「幽囚転転」（6号〜7号）が直木賞候補（1964年下半期）にノミネートされます。その後も、同人たちの快進撃は続き、優れた作品を次々と生み出していきます。こうして「徳島作家」は、常に中央から注目され、全国でもトップ10に入ると言われた同人誌へと成長していったのです。

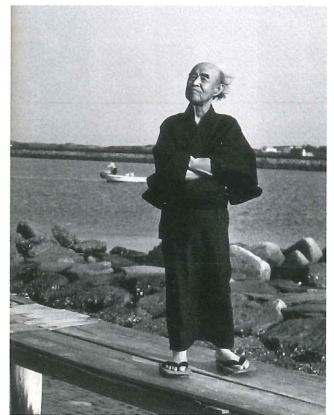
本展では、創刊者の田中と同人たちの華々しい活躍を中心に、徳島の文芸を牽引した「徳島作家」の歩みを紹介します。



2度目の直木賞候補になったころの中川静子（1965年）



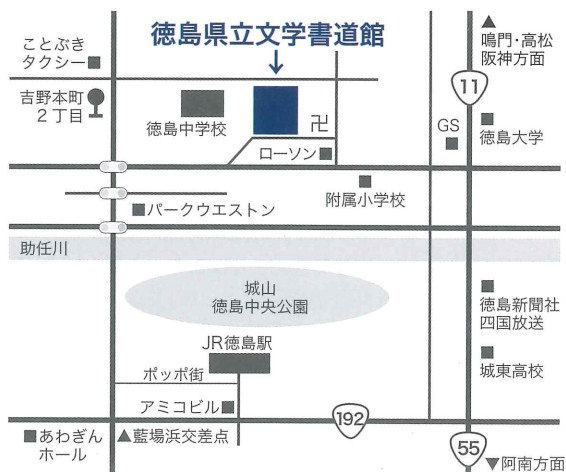
芥川賞候補になったころの岡田みゆき（1961年 提供 徳島新聞社）



徳島市の沖洲海岸に立つ田中富雄（1995年 撮影 西田茂雄）

◆ 講演会・朗読会の申込方法

はがき・FAX・メールのいずれかにイベント名、郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号をご記入のうえ、お申し込みください。当館1階受付でも申し込みます。



交通アクセス（JR徳島駅から）

- 徒歩 約15分
JR徳島駅西側のポッポ街を抜けて右折。踏切と助任川を越え、3つ目の信号を右折して約300m。徳島中学校東隣。
- バス
[徳島市営バス] 7番乗り場「川内循環線（右回り）」に乗車。「吉野本町2丁目」で下車し、徒歩約5分。
[徳島バス] 15番乗り場「前川経由」に乗車。「吉野本町2丁目」で下車し、徒歩約5分。
- タクシー・自動車 約5分
国道192号線、藍場浜交差点を北進。助任川を越え、4つ目の信号を右折して約300m。
- 駐車場
当館北側にあります（43台、大型バス2台）。